

## INFORMATION

### プラネタリウム

#### 沖縄の星物語

星砂の物語をはじめ、沖縄の島々に伝わる星物語をのびやかな沖縄のメロディーとともにめぐる旅です。

4月15日(日) ▶ 7月9日(日)

平日	17:30
夏休み平日	11:30 14:30 17:30
土曜	11:30 14:30 17:30
日・祝日	11:30 14:30

### 全天周映画

#### アフリカ・セレンゲティ

東アフリカのセレンゲティ平原で繰り広げられる動物たちの命のドラマ。アフリカの大自然を描く迫力あるドキュメンタリー映像。

▶ 10月1日(日)

平日	16:00 19:00
夏休み平日	10:00 13:00 16:00 19:00
土・日・祝	10:00 13:00 16:00

### MUSIC PLANET

ミュージック・プラネット

土曜の夜だけの特別プログラム。最新鋭プラネタリウムによる満天の星空と心地良いサウンド、そして宇宙の話題が織りなすファンタジックなひとときをお楽しみください。

土曜	19:00
	4月1・15・22日
	5月6・20・27日
	6月10・17・24日

#### ■料金 (入館料を含みます)

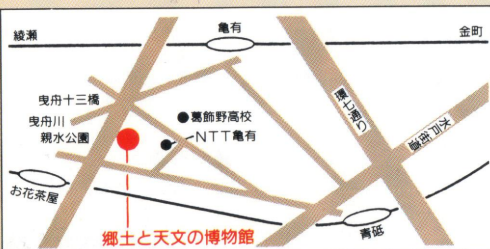
大人400円 / 小・中学生150円 / 幼児50円

#### ■休館日

月曜日 (祝日は開館) / 第2・4火曜日  
7月12日(水)~14日(金)のプラネタリウム・全天周映画は番組入替のため休演。

#### ■上映15分前までにこ来館ください。

#### 交通のご案内



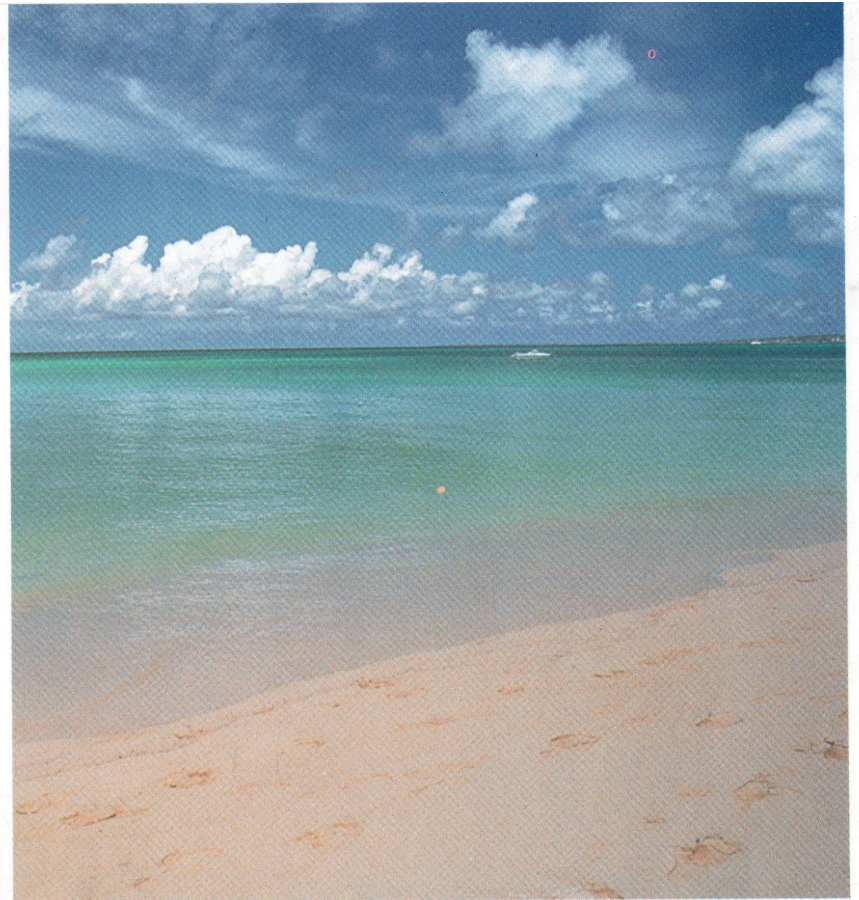
- 京成線 [お花茶屋] から8分
- JR常磐線 [亀有] から25分
- 京成バス (新小53 亀有-新小岩) [博物館前] 下車すぐ
- 駐車場に限りがございます。電車・バスをご利用ください。

葛飾区



葛飾区郷土と天文の博物館

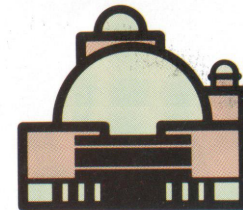
〒125 東京都葛飾区白鳥3-25-1  
TEL 03(3838)1101



# PLANETARIUM

沖縄の星物語

Vol. 16 1995・春-夏



KATSUSHIKA CITY MUSEUM



1995年・春の星空より

# 銀河に咲いたサザンクロス。



## ■南十字星を見つけよう！

南天のシンボルともいえる南十字星は北緯25度より北では見られないため、北半球に住む人々にとっては憧れの星です。南北に長い日本では、沖縄県の八重山諸島で見ることができます。春の宵の空、南の水平線ぎりぎりに輝きます。

南十字星を見つけるには、まず、北斗七星の柄の部分がつくる曲線をそのままのばし、うしかい座のアルクトゥルス、おとめ座のスピカを通り、4つの星がいびつな四角形に並びからす座を見つけます。からす座をまっすぐ南下にたどれば、南十字星があるはずす。

## ■天の南極をしらせる十字架

南十字星は「みなみじゅうじ座」の星の並びで、1等星が2つも輝き、さらに2等星と3等星が1つずつ花を添えています。この星の並びはもともとケンタウルス座の一部でしたが、フランスの天文学者ロワイエによって星座として独立されました。その姿の美しさもさることながら、南十字星は天の南極を指し示す星として重要な役割を果たしています。

また、近くに輝くケンタウルス座の $\alpha$ 星と $\beta$ 星からも南十字を探すことができます。そのため、 $\alpha$ ・ $\beta$ 星はサザン・ポインターズ（南の指極星）とよばれます。

## 沖縄の星物語

### ★星砂の伝説★

沖縄の八重山諸島には、美しい珊瑚礁に囲まれた星砂の浜があります。中でも竹富島には「星砂」にまつわる次のような物語が伝わっています…『むかし、空には父星と母星がおりました。母星が空気の澄んだ竹富島の浜辺に降りてお産をすると、八万八千八百八十八人の星の子たちが一緒に生まれてきたのです。こんなに大勢では母星もみんなに目がゆきとどきません。とうとう星の子たちは骨ばかりとなり、その浜で息絶えました。星砂は星の子の骨。これを知った神女は香炉に星砂を入れ、なきがらをそっと母星のそばに帰してあげました。空に帰った星の子たちは母星のそばでうれしそうにきらきらと輝いています。』



▲星砂物語のふるさと 竹富島

### ★「ムリブシオガン」の物語★



▲ムリブシオガンのある石垣島 川平(かびら)

八重山諸島の石垣島にはまた、『ムリブシオガン』の物語が伝わります。「ムリブシ」は「すばる」の意味で、「オガン」とは、沖縄のあちこちに見られる神様を祭った祠（ほこら）です。その伝説とは…『ある晩女の子がひとりでしっこしに行くくと、空のムリブシの方にゆらゆら揺れる火が見えた。おどろいて家族に伝えたがそんな星は見たことがないという。別の晩、家族が空を見るとまた提灯の火みたいなものが見えた。それで神様が降りたに違いないと思い、そこにオガンを建て、ムリブシの神様を祭り、大切にしたいという。』…いまもムリブシオガンは島の人々に祭られています。

### ★昔の人々と星物語★



▲ムリブシ(すばる)

ムリブシ(すばる)は八重山諸島では天頂を通るため、神聖な星とされ、農耕を助ける重要な星でもありました。昔の人々は星を目当てに農耕をし、星から時間を

知りました。くるうことのない星空時計は人々の暮らしをどれほどたすけたことでしょうか。そんな、人が星とともに暮らしていた時代に、星の物語は生まれ、語られたのです。

## おきなわ ほしものがたり 沖縄の星物語

■ナレーター 島本須美

(「風の谷のナウシカ」「めぞん一刻」など)

■語り 竹口安芸子

■挿入歌

りんけんバンド  
「黄金三星」  
「ムリカ六星」

